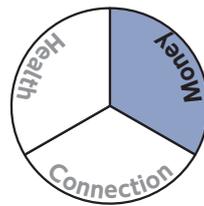


向こう1年間の市場見通し (12月5日時点)



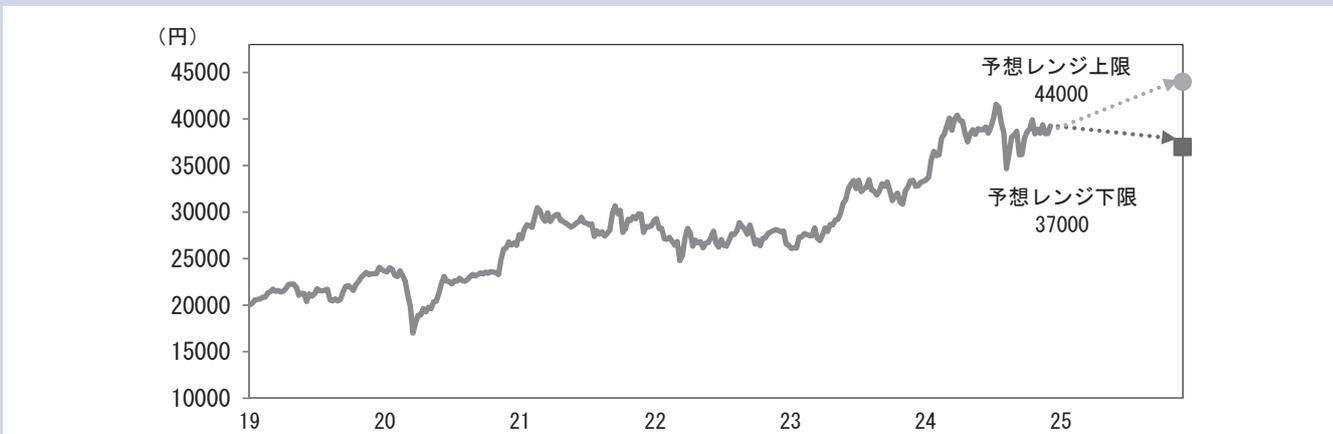
経済調査部 主席エコノミスト 藤代 宏一 (ふじしろ こういち)

予想コメント

	コメント
株式	日本株は8月に暴落した後、下値を切り上げている。米国の景気後退懸念が和らぐ下、中国の景気対策への期待もあり、底堅さを増している。今後も企業業績の拡大、積極的な株主還元を背景に底堅さを増すと期待される。トランプ減税が実現すれば、最高値更新の可能性が高まる。
ドル円	米国経済は減速しているものの、景気後退には程遠い。そうした下で市場参加者が予想するFRBの利下げペースは緩やかになり、日米金利差縮小を見込むドル売り・円買いは休止している。トランプ氏の掲げる政策(関税引上、移民抑制)はインフレ再加速を通じてドル高圧力となろう。
金利	日銀は7月に政策金利を0.25%に引き上げた。名目賃金の上昇が続く下、今後も追加利上げが検討される見込み。政策金利は2025年末までに1%まで上昇する可能性が高まっている。当面の長期金利は日銀による買い入れが続く下、1%台前半で推移するとみている。

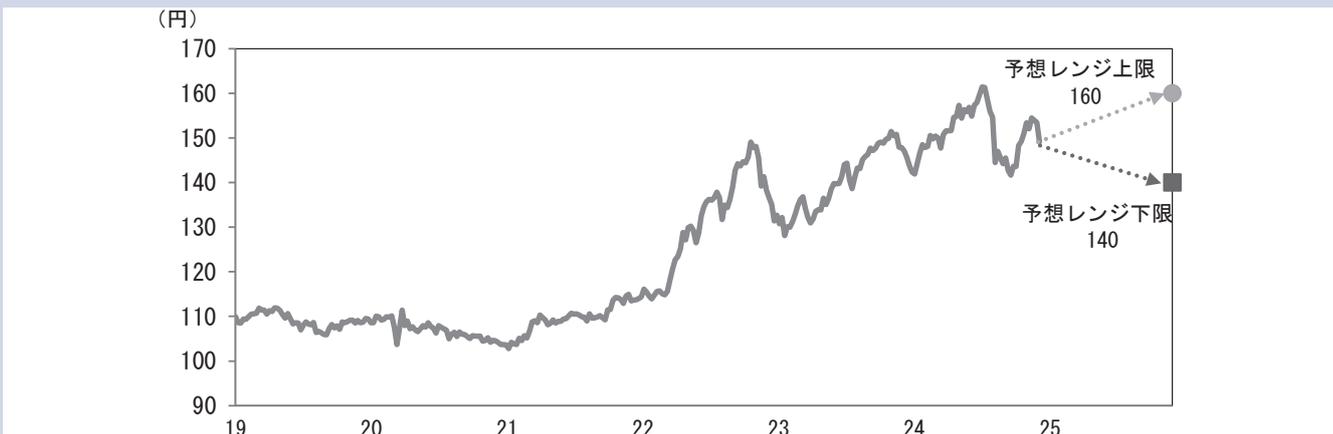
(注)記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

向こう1年間の日経平均株価



(出所)Refinitivより第一生命経済研究所作成

向こう1年間のドル円相場



(出所)Refinitivより第一生命経済研究所作成